

ラグビーワールドカップ 2019™
東京 2020 オリンピック・パラリンピックに向けた

横浜市の取組

平成 30 年度 取組状況

令和元年9月

横浜市

< 目 次 >

- 1 ラグビーワールドカップ 2019™ 東京 2020 オリンピック・パラリンピックに向けた「横浜市の取組」について P 1

- 2 平成 30 年度取組状況について
 - 「柱 1 両大会の成功に向けてオール横浜でおもてなし」の取組 P 2
【3 分野、9 項目 (①、②…)、21 取組 (ア、イ…)】

 - 「柱 2 スポーツを通じて横浜を元気に」の取組 P 7
【4 分野、9 項目 (①、②…)、28 取組 (ア、イ…)】

 - 「柱 3 文化芸術の創造性を生かしたまちづくり」の取組 P 13
【4 分野、8 項目 (①、②…)、11 取組 (ア、イ…)】

 - 「柱 4 横浜を世界に魅せる」の取組 P 17
【4 分野、10 項目 (①、②…)、25 取組 (ア、イ…)】

1 ラグビーワールドカップ2019™ 東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた「横浜市の取組」について

平成28年11月17日に官民連携組織「ラグビーワールドカップ2019™ 東京2020オリンピック・パラリンピック 横浜開催推進委員会」を立ち上げ、「ラグビーワールドカップ2019™ 東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた横浜ビジョン～横浜のさらなる飛躍とレガシーの創造～」を策定しました。

そこに掲げられている「取組の4つの柱」に基づいて、横浜市が行う両大会に向けた取組や、取組から生まれるレガシーを、ラグビーワールドカップ2019™ 東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた「横浜市の取組」としてまとめました。

横浜市では、両大会の開催を契機に、スポーツ振興はもとより、文化芸術の振興、経済、教育分野、シティプロモーションなど幅広い取組により、次世代を担う子どもたちへの「贈り物」となるような有形無形のレガシーを遺していきます。

《取組の4つの柱（「ラグビーワールドカップ2019™ 東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた横浜ビジョン」より）》

- (1) 両大会の成功に向けてオール横浜でおもてなし
- (2) スポーツを通じて横浜を元気に
- (3) 文化芸術の創造性を生かしたまちづくり
- (4) 横浜を世界に魅せる

※「横浜市の取組」に掲載している取組の事業費については、毎年度の予算編成の中で決定します。

※「横浜市の取組」の取組期間は令和2年度までとなっており、両大会後も継続して取り組む予定のものについても計画期間に合わせて目標時期を記載しています。

2 平成30年度の取組状況について

柱1 両大会の成功に向けてオール横浜でもてなし

分野:本市で開催される競技について、関係機関と連携・協力し、円滑に実施します(1/2)

主な取組の内容	目標時期	所管局	平成30年度の取組状況
<p>① 競技会場における各種計画（警備、安全確保、救急医療体制など）の策定・実施</p> <p>ア 危機管理・安全対策 組織委員会や警察等関係機関と連携を図りながら、選手、大会関係者、観戦客等の安全対策に取り組みます。 大会開催期間中の有事に備え各種訓練を実施します。 ・会場周辺の安全対策の推進 ・組織委員会等と連携した各種計画の策定、大規模災害発生時を想定した事前対策の推進 ・関連施設等の防火・安全対策 ・各種災害対応訓練の実施（図上訓練、テロ災害対応訓練、警察など関係機関と連携した合同訓練など）</p>	H29～R 2	市民局 総務局 消防局 等	<p>【両大会共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・危機管理プロジェクトの開催：4回 ・テロ対策合同訓練の実施 ・NBC災害隊対応関連資機材等の整備 ・多数傷病者対応関連資機材の整備 ・現地情報収集機能等を充実・強化するため、コマンドカー関連資機材等を整備 <p>【ラグビーワールドカップ2019TM】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ラグビーワールドカップ2019TM横浜市危機管理計画策定 ・ラグビーワールドカップ2019TM警備計画策定
<p>イ 交通・輸送対策 組織委員会と連携し、選手、大会関係者の円滑な輸送を図るとともに、鉄道等公共交通機関における混雑緩和対策に取り組みます。 ・警察、輸送事業者及び道路管理者等と連携した交通輸送体制の確立（公共交通機関の増発、終電延長他） ・本市の広報媒体等を活用した事前広報</p>	H29～R 2	市民局 道路局 交通局 等	<p>【両大会共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通輸送プロジェクトの開催：2回 ・横浜開催推進委員会専門委員会「交通輸送検討部会」の開催：2回 <p>【ラグビーワールドカップ2019TM】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通輸送実施計画策定 ・キャノンプレディスローカップ2018における実施・検証 <p>【東京2020オリンピック・パラリンピック】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会場周辺交通輸送ワーキング開催：2回
<p>ウ 救急医療体制の構築 大会開催期間中の救急医療体制を構築します。 ・大会開催期間中の救急医療体制の確立 ・テロ等大規模災害発生による多数負傷者発生時の搬送体制の確立</p>	H29～R 2	市民局 医療局 医療局病院経営本部 消防局 等	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜開催推進委員会専門委員会「医療救護検討部会」の開催：3回 ・テロ対策合同訓練の実施【再掲】 ・NBC災害隊対応関連資機材等の整備【再掲】 ・多数傷病者対応関連資機材の整備【再掲】 ・現地情報収集機能等を充実・強化するため、コマンドカー関連資機材等を整備【再掲】
<p>エ 外国人診療の支援 滞在中の外国人が安心して医療を受けられるような体制を整備します。 ・JCI・JMIP（※）認証取得に向けた病院支援 ※JCI：医療の質や安全性、継続的な品質改善を評価する国際的な医療機能評価のこと。 ※JMIP：医療機関における多言語対応や異文化・宗教への配慮等の体制を評価する制度のこと。</p>	～R 2	医療局 医療局病院経営本部 国際局	<ul style="list-style-type: none"> ・JMIP認証支援補助金の交付（2医療機関） <p>①済生会横浜市東部病院 平成30年7月認証取得（市内初）</p> <p>②国際親善総合病院 平成31年3月認証受審</p>

柱1 両大会の成功に向けてオール横浜でおもてなし

分野:本市で開催される競技について、関係機関と連携・協力し、円滑に実施します(2/2)

主な取組の内容	目標時期	所管局	平成30年度の取組状況
<p>② 競技会場における必要な整備やアクセスルートなども含めたバリアフリーや屋外広告物への対応</p> <p>ア 会場整備 会場施設等の必要な改修を行うとともに、障害者や高齢者をはじめ、誰もが円滑に移動でき、安全に観戦できるよう、バリアフリー対応の充実に取り組みます。</p> <p><横浜国際総合競技場> ・ラグビーワールドカップ2019TM決勝戦の開催に向けた照明設備を更新し、競技場の魅力づくりを図ります。 ・国際大会の開催時に安全や機能を確保するため、競技用の場内放送設備等の保全工事やトイレの増設、洋式化やテレビ放送関連設備の更新などを実施します。</p> <p><横浜スタジアム> ・野球・ソフトボールの開催に向けて、大会組織委員会等と調整を行います。</p>	~R 2	市民局 健康福祉局 環境創造局 等	<p>【横浜国際総合競技場】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会場施設における、運営エリアのトイレの改修、観客席やフィールド芝の改修、電気設備や機械設備の更新などを実施 ・仮設設備設計業務を実施 ・国際大会におけるフィールド拡張の実施・検証 <p>【横浜スタジアム】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・横浜スタジアムの増築・改修工事の中で、エレベーターの増設等バリアフリーの推進に向けた工事進捗を確認し、組織委員会との情報共有を実施
<p>イ 屋外広告物への対応 両大会スポンサーのマーケティング活動を妨害しないよう、アクセスルート上の屋外広告物について組織委員会と連携して対応します。 また、景観維持と安全対策のため、期間前と期間中に会場周辺や市内主要駅周辺での路上違反広告物の除却を強化します。</p>	R元・2	市民局 都市整備局	<ul style="list-style-type: none"> ・主要幹線道路や鉄道駅周辺を中心に、路上違反広告物の撤去を実施 ・遮蔽対象となる広告、サインの大会組織委員会への確認、調整
<p>③ 組織委員会と連携した大会運営ボランティアの育成・活用</p> <p>ア 大会運営ボランティアの育成・活用 組織委員会と連携し、大会運営を担うボランティアの育成に取り組みます。</p>	H29~R 2 (R 3以降も継続予定)	市民局	<p>【両大会共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアプロジェクトの開催：2回 <p>【ラグビーワールドカップ2019TM】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア募集の広報 ・ボランティア面接の実施 ・オリエンテーションの実施 <p>【東京2020オリンピック・パラリンピック】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大会組織委員会との連携及び情報収集

柱1 両大会の成功に向けてオール横浜でおもてなし

分野: 両大会に向けて機運を醸成し、大会を盛り上げます(1/2)

主な取組の内容	目標時期	所管局	平成30年度の取組状況
<p>① 機運の醸成と両大会を盛り上げるための広報・イベントの実施</p> <p>ア 既存広報誌、市ホームページを活用した広報</p> <p>広報計画を策定し、「広報よこはま」等の既存広報ツールや地下鉄駅を活用した効果的な大会のPRを行います。競技開催予定都市である横浜を紹介するPR動画を作成し、イベント等で放映することにより機運の醸成を図ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報計画の策定 ・「広報よこはま」の活用 ・PR動画の作成・活用 ・地下鉄駅を活用したPRの実施 他 	<p>～H29 ～R 2 H29～R 2 R元・2</p>	<p>市民局 交通局</p>	<p>【ラグビーワールドカップ2019TM】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報計画の策定 ・「広報よこはま」へのコラム掲載（隔月） ・ウェブサイト、SNSを活用した情報発信（記事掲載：月2回、SNS：週1回、イベント情報：随時更新） ・PR動画の作成活用 <p>【東京2020オリンピック・パラリンピック】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報よこはまへの情報掲載：2回 ・PRスライドショー作成・活用 ・地下鉄広告枠を活用したPRの実施 ・市民局ウェブサイトでの情報発信 ・特設ウェブサイトの新設・情報発信 ・SNS（Twitter）のアカウント新設・情報発信
<p>イ 情報発信拠点の設置</p> <p>市内の主要駅にPRスペース等を設置し、両大会の認知度の向上や、大会関連イベントの広報に取り組みます。</p>	<p>H30～R 2</p>	<p>市民局 等</p>	<p>【ラグビーワールドカップ2019TM】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鉄道駅へのポスター掲出 ・ラッピングバスの運行 ・市営地下鉄・市営バスへの動画掲出 ・市営地下鉄開内駅にラグビーオールギャラリ設置 <p>【東京2020オリンピック・パラリンピック】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地下鉄広告枠を活用したPRの実施 ・PRボックスを活用したPRの実施
<p>ウ 盛り上げイベント等の実施</p> <p>節目ごとのイベントの開催や、各区における盛り上げイベント等の実施により、両大会に向けた機運醸成を図ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・限定乗車券の販売 ・節目ごとのカウントダウンイベントの開催 ・カウントダウンボードの設置 ・各区における機運醸成イベントの実施 	<p>R元・2 H30～R 2 H29～R 2</p>	<p>市民局 交通局 等</p>	<p>【ラグビーワールドカップ2019TM】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カウントダウンボード設置（電光掲示：5基、簡易ボード：18区役所、18スポーツセンターほか） ・カウントダウンイベントの実施：7回 ・18区での機運醸成イベント等の実施 <p>【東京2020オリンピック・パラリンピック】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2年前キャンペーン：7/24～8/25（コアイベント8/4開催） ・500日前キャンペーン：3/1～3/31（コアイベント3/16開催） ・全18区への予算配付（5,564千円）
<p>エ 既存イベントと連携した機運醸成</p> <p>区民まつりや消防出初式等各種既存イベントと連携したPR活動や、パラリンピック競技体験等を実施します。</p>	<p>～R 2</p>	<p>市民局 各区局 等</p>	<p>【ラグビーワールドカップ2019TM】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種イベントへのPRブース出展：29回 <p>【東京2020オリンピック・パラリンピック】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存の大規模イベントと連携し、ブース出展やパラリンピック競技体験等を実施：20回
<p>オ テストイベントと連携した機運醸成</p> <p>テストイベントにおけるPR活動の実施により、大会本番に向けた盛り上がりを高めます。</p>	<p>H30・R元</p>	<p>市民局 等</p>	<p>【ラグビーワールドカップ2019TM】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月27日キャノン プレディスローカップ2018を契機とした広報や当日イベント、シティドレッシング（観客数：46,143人。JRFU主催試合歴史最多）
<p>カ 街の装飾</p> <p>パナー等の装飾によるPR活動を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・競技会場や競技会場周辺及び市内主要駅等へのパナーなどの装飾によるPR活動 ・地元商店街と連携したPR活動 ・まちなみラッピングの検討・調整 	<p>R元・2</p>	<p>市民局 経済局 交通局 資源循環局 工事実施所管局 各区 等</p>	<p>【ラグビーワールドカップ2019TM】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア募集、チケット販売の機会に合わせたドレッシング ・キャノン プレディスローカップ2018に合わせたドレッシング ・大会期間中のシティドレッシング計画策定 <p>【東京2020オリンピック・パラリンピック】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地下鉄広告枠を活用したPRの実施 ・都市装飾設置プランの作成に向けた基礎調査の実施

柱1 両大会の成功に向けてオール横浜でおもてなし

分野: 両大会に向けて機運を醸成し、大会を盛り上げます(2/2)

主な取組の内容	目標時期	所管局	平成30年度の取組状況
キ 市民参加による聖火リレー 東京2020大会に関連して実施される聖火リレーについて、多くの市民が大会に関わる機会を増やすため、リレールート誘致に取り組みます。	R 2	市民局	【東京2020オリンピック・パラリンピック】 ・「東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会」や「神奈川県実行委員会」における聖火リレー全般の検討状況把握及び庁内情報共有を実施
ク パブリックビューイングの実施 競技会場で観戦できない方々のためにパブリックビューイングを開催し、多くの市民が感動を共有できる環境を整えます。	R元・2	市民局 等	【ラグビーワールドカップ2019 TM 】 ・パブリックビューイング：5回
ケ メダル制作に向けた小型家電等の回収 市民のみなさまがお持ちの使用済み小型家電等には、メダルの制作に必要な金属が含まれています。組織委員会と連携し、東京2020大会で使用するメダル制作に向け、小型家電等の回収を進めます。	H29～R元	市民局 資源循環局	【東京2020オリンピック・パラリンピック】 ・横浜マラソンイベント回収実施（3日間） ・CP+イベント回収実施（2日間） ・車内広告による事業関連情報の告知（東横線・相鉄・ブルーライン・グリーンライン・市営バス） ・Twitterを活用した事業関連情報の告知（年1回） ・店頭回収拠点の増加（6店舗） ・横浜消防出初式での回収実施
② 来訪者をおもてなしするボランティアの育成・活用に向けた取組 ア 都市ボランティアの育成・活用 組織委員会等と連携しながら、都市ボランティアの育成や活用に取り組みます。	H29～R 2	市民局 国際局 等	【東京2020オリンピック・パラリンピック】 ・ボランティアプロジェクトの開催：2回【再掲】 ・在住外国人向けボランティア講座の開催：のべ71名参加
③ ラグビーワールドカップ2019 TM ファンゾーンの設置による来訪者へのおもてなし ア ファンゾーンの設置 ラグビーワールドカップ2019 TM の開催に伴い、公共のエリアでパブリックビューイングなどラグビーファン向けにラグビーワールドカップに関係する体験を提供する「ファンゾーン」を設置します。	R元	市民局	【ラグビーワールドカップ2019 TM 】 ・ファンゾーンの開催地を「臨港パーク」に決定 ・開催地「臨港パーク」におけるイベント実施・検証 ・ファンゾーン運営計画策定

柱1 両大会の成功に向けてオール横浜でおもてなし

分野:トレーニングキャンプの受入やホストタウンの取組等を通じた国際交流を進め、様々な国の人々と理解し合い協働できる人材の育成などに取り組みます

主な取組の内容	目標時期	所管局	平成30年度の取組状況
<p>① トレーニングキャンプの受入に向けた調整</p> <p>ア 事前キャンプの受入 関係団体と連携し、東京2020大会に出場する英国オリンピック代表チームの事前キャンプを受入れます。併せて、国際都市としての更なる発展に向けて新たな受入れについて検討します。 ・施設利用契約の締結 ・大会開催時の事前キャンプの受入</p>	H29 R 2	市民局 国際局	<p>【ラグビーワールドカップ2019TM】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大会組織委員会と公認チームキャンプ地契約を締結 アイルランド及びスコットランド代表チーム受入れに向けた練習グラウンド整備、ゴールポスト設置 <p>【東京2020オリンピック・パラリンピック】</p> <ul style="list-style-type: none"> 英国オリンピック代表チームによる2020年の事前キャンプ実施に向けた調整・協議、視察の受入れなどの実施 英国パラリンピック代表チームと事前キャンプ実施に向けた覚書締結
<p>② ホストタウン構想の実施などによる国際交流の推進</p> <p>ア ホストタウンの取組 英国のホストタウンとしての取組を通じ、英国関係者等と市民の皆様の交流機会を創出します。 新たな事前キャンプの受入れに伴うホストタウン登録について検討します。 ・英国関係者と連携した交流 ・大会等に参加するために来日する英国代表選手との交流</p>	H29～R 2 R元～2	市民局 国際局 等	<p>【ラグビーワールドカップ2019TM】</p> <ul style="list-style-type: none"> 日新豪少年少女ラグビー交流フェスティバルの開催 <p>【東京2020オリンピック・パラリンピック】</p> <ul style="list-style-type: none"> よこはま国際フェスタやANOC総会にてホストタウン登録国PRのためのブースを出展 世界トライアスロンシリーズ横浜大会及びジャパンパラ水泳競技大会に出場する英国代表チームとの交流会を実施 本市WEBサイトに、市内小学生記者による英国事前キャンプに関連した取材と記事執筆依頼 ブリティッシュカウンシル等と連携し英国を知るための文化講座を計3回実施等 アフリカ等の各国とのホストタウンとしての取組を通じた交流を実施 <ul style="list-style-type: none"> イスラエル： <ul style="list-style-type: none"> ○30年8月に振付家・ダンサーで世界的に活躍するアーティストが来日し、ダンスアーティストや学生に向けたワークショップを開催 チュニジア： <ul style="list-style-type: none"> ○30年9月に剣道ナショナルチームが来日し、小学校や市剣道連盟との交流事業を実施 ○30年11月にチュニジアオリンピック委員会からの来訪者が市内小学校を訪問し、児童と交流 ○31年3月にチュニジアデーイベントを市内ショッピングモールで開催 チュニジア、ベナン、コートジボワール： <ul style="list-style-type: none"> ○30年10月によこはま国際フェスタ2018に大使館が出展 ボツワナ： <ul style="list-style-type: none"> ○30年11月に都筑区民まつりにボツワナ大使館が出展
<p>③ 文化の異なる人々と協働する姿勢を身につけた人材の育成</p> <p>ア グローバル人材の育成等 グローバル人材の育成に向けた学校教育における取組や、多文化共生活動への支援を推進します。 ・小学校1年生からの外国人講師による小学校国際理解教室の実施や英語教育の推進 ・小中学校等への外国人英語指導助手（AET）配置等による英語教育の推進 ・各校に在籍する外国籍等児童生徒との交流を通じた異文化理解・多文化共生意識の醸成 ・グローバル人材の育成に向けた、授業等における外国人との異文化交流の実施 ・来訪外国人のおもてなしや異文化理解の促進などに取り組む市民団体やNPOの取組への支援の実施</p>	<p>～R 2 (R 3以降も継続予定)</p> <p>H29～R 2</p>	教育委員会 国際局	<ul style="list-style-type: none"> 外国人講師配置学校数：小学校全学校及び特別支援学校9校 AET配置校数：小中学校等全校、特別支援学校10校 外国籍、外国につながる児童生徒の人数：9,713人 英語教育：英語指導助手の全校配置、英検の活用 国際交流プログラム：市立高校7校で実施 海外大学進学支援事業：全学年で実施 スーパーグローバルハイスクール：市立高校2校で受託 来訪外国人のおもてなしや異文化理解の促進等に取り組む5件の市民活動の支援

柱2スポーツを通じて横浜を元気に

分野:ラグビー競技の普及を図りながら、スポーツへの意欲向上と地域スポーツの振興に取り組みます(1/3)

主な取組の内容	目標時期	所管局	平成30年度の取組状況
<p>① オリンピアン・パラリンピアン、ラグビー日本代表等トップアスリートと小・中学生等との交流を通じた運動意欲の向上</p> <p>ア オリンピック・パラリンピック出場経験者の派遣 東京2020大会の開催に向けて、オリンピック・パラリンピック出場経験者を招へいたイベントを開催するなど、市内のスポーツ振興と大会に向けた機運の醸成を図ります。</p>	~R 2 (R 3以降も継続予定)	市民局	・オリンピアン・パラリンピアンによる学校訪問を実施：小学校・特別支援校35校、中学校18校
<p>イ 小中学生とオリンピック・パラリンピック出場経験者等との交流 はまっ子スポーツウェーブ（小学校体育大会・小学校水泳大会等）や中学校総合体育大会などにオリンピック・パラリンピック出場経験者等トップアスリートを招へいし、演技の実演や講演を実施することで大会に向けた機運の醸成を図ります。</p>	~R 2 (R 3以降も継続予定)	市民局 教育委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・市教委主催の体育行事等にオリンピアン・パラリンピアン等のトップアスリートを招へいし、小中学生との交流を実施（招へい大会数：9 招へい人数（団体含む）：10） ・オリンピック・パラリンピック教育推校として16校（小10、中4、高1、特1）を設置し、年間を通して、オリパラ教育を重点的に実施（成果報告会の開催：1月）
<p>ウ 市内小学校にラグビー選手やタグラグビー指導者を派遣 ラグビーワールドカップ2019[®]の開催に向けて、市内小学校にラグビーワールドカップ出場経験者やタグラグビー指導者を招へいし、講演やタグラグビーを実施することで、大会に向けた機運の醸成を図ります。</p>	~R 2 (R 3以降も継続予定)	市民局	<ul style="list-style-type: none"> ・元ラグビー日本代表選手による学校訪問を実施：小学校18校（各区1校） ・開催都市特別サポーターによる親子ラグビー教室の実施：5回（このほか、親子ラグビー大会1回）
<p>エ トップアスリート等との連携・協力 JOCパートナー都市協定を通じてのオリンピアンやプロスポーツチームあるいはトップアスリートが立ち上げたNPO法人等と連携・協力することにより、トップアスリートを学校や地域に派遣し、子ども達や多くの市民が一流のアスリートと触れ合う機会を提供し、スポーツへの関心を高めます。</p>	~R 2 (R 3以降も継続予定)	市民局	<ul style="list-style-type: none"> ・各区とプロスポーツチームの連携事業による学校訪問やスポーツ教室の開催：9回 ・4つのプロスポーツチームによる独自の学校訪問やスポーツ教室を多数開催
<p>オ 大規模スポーツイベントの誘致・開催 国際大会や全国大会などの大規模イベントの誘致に取り組み、市民のスポーツ観戦やボランティア活動に参加する機会を増やします。また、魅力的な大規模イベントを誘致・開催することにより、世界や全国に向けた横浜の知名度のアップや、経済及び地域の活性化などにも貢献していきます。</p>	~R 2 (R 3以降も継続予定)	市民局	<ul style="list-style-type: none"> ・大規模スポーツイベントの開催：13回 ・大規模スポーツイベントの観戦者数：669,114人

柱2スポーツを通じて横浜を元気に

分野:ラグビー競技の普及を図りながら、スポーツへの意欲向上と地域スポーツの振興に取り組みます(2/3)

主な取組の内容	目標時期	所管局	平30年度の取組状況
カ スポーツ遺産の保存・活用 横浜は、テニス、ラグビー、競馬等、多くのスポーツ文化の発祥の地であり、その歴史や伝統を継承していきます。 また、ワールドカップサッカー決勝戦の会場となった横浜国際総合競技場等のスポーツ施設やボランティア等の人的資源、大規模スポーツイベントの運営知識やノウハウなどのスポーツ遺産を未来の横浜の子どもたちへの財産として残します。	～R 2 (R 3以降も継続予定)	市民局	・横浜市スポーツボランティアセンター事業：登録者数10,464人、研修会開催(3月)
② 市民参加型スポーツイベントの充実や横浜文化体育館再整備等による場の拡充など、地域スポーツの振興 ア スポーツボランティアの育成・支援 スポーツイベント等の運営を支えてくれるスポーツボランティアを育成・支援します。また、スポーツボランティアが継続的な活動ができる仕組みや、ボランティアとしての功績を称える環境を整えます。 「横浜市スポーツボランティアセンター(仮称)」を設置し、市民が積極的・自発的にスポーツに関われる体制づくりやその支援を行います。	H29～R 2 (R 3以降も継続予定)	市民局	・横浜市スポーツボランティアセンター事業：登録者数10,464人、研修会開催(3月)
イ 市民参加型スポーツイベントの充実 スポーツ・レクリエーションフェスティバル、ビーチスポーツフェスタ、市民大会・区民大会など、各競技団体と連携しながら、市民が気軽に参加でき、日頃の練習の成果を発揮する機会となる市民参加型スポーツイベントの充実を図るとともに、初心者が安心して参加できる環境を整えます。	～R 2 (R 3以降も継続予定)	市民局 各区	・スポーツ・レクリエーションフェスティバル 参加者数：64,722人 ・ビーチスポーツフェスタ 参加者数：4,298人
ウ 大規模屋内スポーツ施設(スケート場、横浜文化体育館(メインアリーナ施設・サブアリーナ施設(横浜武道館)))の再整備 関内・関外地区の街づくりを進める中で、横浜文化体育館を再整備します。その際、武道を行うことのできる環境を整備します。 また、老朽化した神奈川スケートリンクの再整備を行いました。今後施設のさらなる有効活用を行います。	～R 2 (R 3以降も継続予定)	市民局	・設計業務 ・建築工事(サブアリーナ)
エ スポーツ情報等の提供 市民が「する」「観る」「支える」といった様々なスポーツ活動に参加しやすくなるよう、スポーツイベントの開催情報やスポーツボランティアに関する情報、スポーツ指導者、スポーツ施設の利用に関する情報等を横浜市のホームページや広報紙、または、(公財)横浜市体育協会のスポーツ情報サイト「ハマスポどっとコム」やホームページ等を通じて提供します。また、携帯端末等の身近な媒体でも情報が提供できるようにしていきます。	～R 2 (R 3以降も継続予定)	市民局	・スポーツ情報サイト「ハマスポ」運営 ・「SPORTSよこはま」発行 ・SNSによる情報発信

柱2スポーツを通じて横浜を元気に

分野:ラグビー競技の普及を図りながら、スポーツへの意欲向上と地域スポーツの振興に取り組みます(3/3)

主な取組の内容	目標時期	所管局	平成30年度の取組状況
<p>③ <u>ラグビーワールドカップ2019[™]開催を契機としたラグビーの普及・啓発</u> <u>ア 小学校派遣事業（市内小学校にラグビー選手やタグラグビー指導者を派遣）【再掲】</u> ラグビーワールドカップ2019[™]の開催に向けて、市内18小学校にラグビーワールドカップ出場経験者やタグラグビー指導者を招へいし、講演やタグラグビーを実施することで、大会に向けた機運の醸成を図ります。</p>	～R 2 （R 3以降も継続予定）	市民局	<ul style="list-style-type: none"> 元ラグビー日本代表選手による学校訪問を実施：小学校18校（各区1校）【再掲】 開催都市特別サポーターによる親子ラグビー教室の実施：5回（このほか、親子ラグビー大会1回）【再掲】
<p><u>イ カウントダウンイベントの開催</u> ラグビーワールドカップ2019[™]の開催期間となる9月20日から11月2日を目途に、大会に向けての機運醸成を図るため、横浜国際総合競技場等で開催が予定されるラグビーの試合に併せ、各種イベントを実施し、大会の認知度や盛り上げにつなげていきます。</p>	H29・30	市民局	<ul style="list-style-type: none"> カウントダウンボード設置（電光掲示：5基、簡易ボード：18区役所、18スポーツセンターほか）【再掲】 カウントダウンイベントの実施：7回【再掲】 18区での機運醸成イベント等の実施【再掲】
<p><u>ウ 日本代表戦やジャパントップリーグ等の試合誘致</u> 2019年に向け、ピッチの検証や運営シミュレーションを行うとともに、機運醸成やラグビー競技の普及を目的に計画的にラグビーの試合を誘致します。</p>	～R元	市民局	<ul style="list-style-type: none"> キヤノン ブレディスローカップ2018（日産スタジアム） ヒーローズカップ（日産スタジアム） トップリーグ：4試合（ニッパツ三ツ沢球技場） 関東大学ラグビーリーグ：2試合（ニッパツ三ツ沢球技場）

柱2スポーツを通じて横浜を元気に

分野: 障害のある人もない人も同じようにスポーツ活動を楽しむことが出来るよう、広く社会全体に向けて、障害者スポーツの推進に取り組みます

主な取組の内容	目標時期	所管局	平成30年度の取組状況
<p>① 学校や地域のスポーツイベント等での障害者スポーツの実施、体験を通じた障害者スポーツの普及・啓発（パラリンピック競技体験等）</p> <p>ア 障害者スポーツの場の確保と種目の普及 地域団体・横浜市体育協会・横浜ラポール等が連携した地域ネットワークの構築支援や、新たに設置する障害者スポーツ・文化活動南部方面拠点を活用し、地域スポーツ指導者との連携を進め、自主的に取り組みやすい種目を地域に広げていきます。また、各区のスポーツセンター等における障害者スポーツの指導員の配置、用具の充実、プログラムの提供、よりわかりやすいスポーツ施設等の情報発信に取り組みます。</p>	<p>～R 2 (R 3以降も継続予定)</p>	<p>健康福祉局 市民局</p>	<ul style="list-style-type: none"> 障害者のスポーツ・文化活動の南部方面拠点「ラポール上大岡」整備のための改修工事着手 指定管理者の選定・議決 ボッチャ用具の購入し18区分貸出できる体制の構築 さわやかスポーツ推進委員・体協職員向けのボッチャ講習会の実施
<p>イ 障害の有無に関わらず、誰もが一緒に参加できるスポーツイベントの実施 障害者と健常者が共に楽しむことのできるイベントや大会の開催や、その支援を行うとともに、横浜ラポール、障害者団体、競技団体、地域団体と連携しながら、各区のスポーツセンター等、地域で障害者・健常者がともに楽しめるインクルーシブスポーツ（※）を推進します。 ※インクルーシブスポーツ: 共生社会の実現に向けた取組を推進する、各人の適正にあったスポーツ活動のこと</p>	<p>～R 2 (R 3以降も継続予定)</p>	<p>健康福祉局 市民局</p>	<ul style="list-style-type: none"> スポーツ・レクリエーション事業の実施：9教室（延参加者数：5,247人） 第23回ハマピック開催：10種目（参加者数：1,040人）など 各区におけるヨコハマさわやかスポーツの普及活動（地域活動、講習会、大会、フェスティバル等）：開催回数 10,816回、参加者数 310,973人
<p>② 横浜ラポールと連携した取組、身近で活動できる場の確保、特別支援学校等におけるスポーツ活動の活性化など、スポーツ関係団体や障害者団体とも連携した障害者スポーツの推進</p> <p>ア 地域への障害者スポーツに関するノウハウの浸透 「障害者スポーツ文化センター横浜ラポール」と協力・連携し、各区のスポーツセンターやスポーツ施設の職員等に、定期的（年1～2回）に研修を実施し、障害者スポーツの開始及び継続していくためのノウハウを有する人材の育成を進めるとともに、様々な場面で活躍できる仕組みづくりを進めます。</p>	<p>～R 2 (R 3以降も継続予定)</p>	<p>健康福祉局</p>	<ul style="list-style-type: none"> 人材育成（各種研修）事業の実施 計133回（14,166人参加）
<p>イ 特別支援学校におけるスポーツ選手育成強化事業 東京2020大会を契機に、障害者スポーツの普及・促進を行うほか、特別支援学校の児童生徒がスポーツで世界を目指すことを支援するなど、障害のある子どもたちの自立と社会参加につなげます。</p>	<p>～R 2 (R 3以降も継続予定)</p>	<p>健康福祉局 教育委員会</p>	<ul style="list-style-type: none"> 国際的大会出場奨励金の交付：2名
<p>ウ パラトライアスロンの強化 パラトライアスロン競技の強化拠点として横浜ラポールを提供しており、東京2020大会に向けて、競技の普及・強化に向けた取組を推進します。</p>	<p>～R 2 (R 3以降も継続予定)</p>	<p>市民局 健康福祉局</p>	<ul style="list-style-type: none"> 2018ITU世界トライアスロン・パラトライアスロンシリーズ横浜大会 5月12日（土） エリートパラトライアスロンの部：大会参加者70名 3月19日（火） SEA（スイムイグジットアシスタント）養成セミナー開催：参加者数20名

柱2スポーツを通じて横浜を元気に

分野:子どもたちの運動に親しむ資質や能力を育て、体力向上と、スポーツに関わる人材の育成に取り組みます

主な取組の内容	目標時期	所管局	平成30年度の取組状況
<p>① 市内小・中・義務教育学校・高等学校・特別支援学校と連携した取組</p> <p>ア 体力アップよこはま2020プランに基づく取組の実践</p> <p>「体力アップよこはま2020プラン」に基づき、学校・家庭・地域の連携による体力向上に向けた取組を実践推進します。</p> <p>また、市内小中学校全校で体育・健康に関する指導の全体計画である「体育・健康プラン」を作成し、プランに基づき、学校の特色を生かした「体力向上1校1実践運動」を実施します。</p>	<p>～R 2 (R 3以降も継続予定)</p>	<p>教育委員会</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各学校では「体育・健康プラン」による「体力向上1校1実践運動」を実施 保護者や外部機関との連携による体力向上の取組を実施
<p>イ 食育の推進</p> <p>日常生活をより健康的に送り、スポーツを活発に行うために、スポーツ団体(プロスポーツチームを含む)、教育委員会や食育関係団体と連携・協力しながら、子どもや保護者及び指導者等に食育の普及啓発を行ってまいります。</p>	<p>～R 2 (R 3以降も継続予定)</p>	<p>健康福祉局 教育委員会</p>	<ul style="list-style-type: none"> 食育イベントの実施: 4回 横浜市食育フォーラムの開催: 2回 食育推進研修会の開催: 1回 食育実践推進校の指定: 16校 出前授業の実施: 350校 栄養教諭を中核とした食育推進ネットワークの構築: 69ネットワーク
<p>ウ 東京2020大会を契機とした、運動意欲の向上や運動機会の充実</p> <p>東京2020大会を契機とし、オリンピック・パラリンピアン・トップアスリートとの交流等の機会を通して運動意欲の向上や、関係機関と連携した運動機会の拡充を図ります。</p>	<p>～R 2 (R 3以降も継続予定)</p>	<p>教育委員会</p>	<ul style="list-style-type: none"> 市教委主催の体育行事等にオリンピック・パラリンピアン等のトップアスリートを招へいし、小中学生との交流を実施(招へい大会数: 9 招へい人数(団体含む): 10) オリンピック・パラリンピック教育推校として16校(小10、中4、高1、特1)を設置し、年間を通して、オリパラ教育を重点的に実施 また、1月に、市立学校全校を対象に成果報告会を開催し、オリパラ教育の推進を図る
<p>エ 確かな学力・豊かな心・健やかな体の育成</p> <p>特色ある9年間一貫したカリキュラム・マネジメントを通して、未来社会に生きる子どもたちに必要な資質・能力を育成するとともに、「横浜市子ども学力向上プログラム」、「『豊かな心の育成』推進プログラム」、「体力アップよこはま2020プラン」等、知・徳・体のプログラムに基づき、取組を推進します。</p>	<p>～R 2 (R 3以降も継続予定)</p>	<p>教育委員会</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「横浜市子ども学力向上プログラム」を改訂 市立中学校、義務教育学校後期課程、特別支援学校中学部1年生(義務教育学校は7年生)全員に『礼儀・作法読本』を配付 各学校では「体育・健康プラン」による「体力向上1校1実践運動」や、保護者や外部機関との連携による体力向上の取組を実施【再掲】
<p>オ 幼年期における運動習慣の啓発・普及活動</p> <p>体力の重要性に関して、保護者への啓発セミナーや、ウェブ・健診等を活用した情報提供について検討していきます。また、親子で体験できる各種運動プログラムの提供や、保育園や幼稚園、地域子育て拠点等にスポーツ指導者を派遣し、遊びながら体を動かす楽しさを伝えていく事業を実施します。</p>	<p>～R 2 (R 3以降も継続予定)</p>	<p>こども青少年局 市民局</p>	<ul style="list-style-type: none"> はつらつキンダー事業 実施回数: 201回 (実施園数: 68園、参加者数: 5,955人)
<p>カ 子どもの体力向上事業の実施及び拡充</p> <p>小学校の中休みや放課後の時間にスポーツ指導者や地域の協力者を派遣し、子どもたちが気軽にスポーツに親しめる機会を提供する「いきいきキッズ事業」を拡充し、実施していきます。</p> <p>また、地元の大学と連携し、学校や地域に体育部所属の学生等を派遣し、授業の補助や教室事業等を実施します。</p>	<p>～R 2 (R 3以降も継続予定)</p>	<p>市民局</p>	<ul style="list-style-type: none"> いきいきキッズ事業 実施回数: 672回、参加者数: 80,812人
<p>② 横浜商業高等学校におけるスポーツマネジメント人材の育成</p> <p>ア スポーツマネジメント人材の育成</p> <p>横浜商業高校スポーツマネジメント科において、横浜市スポーツ医科学センターやプロスポーツ関係者等との連携とともに、トップアスリート、スポーツ関係研究者・経営者等に触れる機会を設け、競技力の向上及びスポーツ振興に関わる人材を育成します。</p>	<p>～R 2 (R 3以降も継続予定)</p>	<p>教育委員会</p>	<ul style="list-style-type: none"> 外部講師による講義 理学療法士派遣 専属トレーナー雇用 等

柱2スポーツを通じて横浜を元気に

分野: 本格的な超高齢社会の到来に伴い、生活習慣の改善や介護予防を進めるため、スポーツなどを通じた健康づくりに取り組みます

主な取組の内容	目標時期	所管局	平成30年度の取組状況
<p>① ウォーキングなどの運動による生活習慣の改善や、日常生活の中で取り組める仕組みなどによる健康づくりの推進</p> <p>ア 370万人の健康づくりの推進</p> <p>歩数計やスマホアプリを活用した「よこはまウォーキングポイント」や、様々な健康行動を促す健康イベントなど、日常生活の中で楽しみながら継続して取り組める仕組みにより、市民の健康行動の習慣化を図り、地域とも連携しながら健康づくりを推進します。</p>	<p>～R 2 (R 3以降も継続予定)</p>	<p>健康福祉局 環境創造局 道路局 各区</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・よこはまウォーキングポイント参加登録者数：322,352人(平成31年3月末時点) ・スマートフォン用の歩数計アプリの配信開始 ・健康横浜21推進事業 <ul style="list-style-type: none"> 〔・集団健康教育事業：18区 〔・「健康横浜21推進会議」の開催：2回 ・地域人材育成・活動支援 <ul style="list-style-type: none"> 〔・保健活動推進員事業：13,652回(内訳：研修1,240回、事業7,314回、会議5,098回) 〔・食生活等改善推進員育成支援：690回 ・健康相談等 ・生活習慣改善相談：784回 ・健康みちづくり推進事業として、案内板・距離標等の整備、舗装改修、ハマサポベンチの設置 ・4区7公園で健康器具やウォーキングコース案内看板の設置 ・冊子「公園で健康づくり」を配布し活用・周知 ・区と連携した健康づくりイベントを下田町四丁目公園(港北区)で開催
<p>② 高齢者も楽しむことができるスポーツの推進ほか生涯スポーツの推進</p> <p>ア 高齢者向けのスポーツ教室・イベントの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者のニーズが高い、健康づくりや体力づくりの教室などのほか、介護予防教室など様々なニーズを考慮しながら、高齢者のスポーツ教室やスポーツイベントのより一層の充実を図ります。 ・横浜市オリジナル体操「ハマトレ」の普及啓発を実施します。横浜市歌にあわせた「ハマトレ～体験編～」を活用し運動に取り組むきっかけづくりを推進します。 	<p>～R 2 (R 3以降も継続予定)</p>	<p>健康福祉局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・介護予防に関する講演会、講座・教室等の開催回数：814回 参加者数：23,984人
<p>イ 生涯スポーツへの支援(シニアスポーツの展開・レクリエーションを主体としたスポーツ大会の開催等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツを通じて生きがいづくりや社会参加を促進するため、シニアスポーツの展開を図るとともに、健康・体力づくり運動を推進し、暮らしの一部として習慣化することを支援します。また、スポーツ等に親しむことのできる機会や場の提供を推進します。 ・横浜市老人クラブ連合会などを通じ、健康の保持増進と高齢者相互の親睦を図るため、ゲートボール、グランドゴルフなどの各種スポーツや、レクリエーションを主体としたスポーツ大会を開催します。 ・高齢者を中心とするスポーツ、文化、健康と福祉の総合的な視点として毎年開催される「全国健康福祉祭(ねんりんピック)」に市代表選手団を派遣し、健康・スポーツ活動等の高揚を図ります。また、2021年神奈川県大会の開催に向け、スポーツを通じた高齢者の健康づくりの機運を盛り上げていきます。 ・身近な地域で健康づくりやスポーツ、レクリエーションに取り組めるよう、各区スポーツセンターで、子どもから高齢者までを対象とした各種スポーツ教室を開催します。 ・誰もが、いつでも、どこでも、いつまでも各自の興味やレベルに応じて参加できるよう多世代・多種目・多志向を理念とする総合型地域スポーツクラブの育成を推進し、高齢者や障害者をはじめ誰もが身近な地域でスポーツを実施する機会を提供します。 ・高齢者向けの健康づくりの取組として、健康づくりの場の創出に取り組みます。 	<p>～R 2 (R 3以降も継続予定)</p>	<p>健康福祉局 市民局 環境創造局 各区</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各区におけるヨコハマさわやかスポーツの普及活動(地域活動、講習会、大会、フェスティバル等)：開催回数10,816回、参加者数310,973人【再掲】 ・シニアの祭典(来場者数：1,514人) ・活動拠点型健康づくり事業「ノルディック・ウォークの祭典」試行(総参加者数：910人) ・体操ひろ場(延参加者数：約18万人) ・ゲートボール大会(30チーム選手184人) ・グラウンド・ゴルフ大会(選手105人) ・ベタング大会(34チーム選手134人) ・スポーツリーダー養成講座開講 ・高齢者・中高年健康教室：開催回数4,026回、参加人数148,675人、開催場所 各区スポーツセンター ・市内総合型地域スポーツクラブの設置 <ul style="list-style-type: none"> 〔・設立済(平成30年度末時点)：13区26クラブ 〔・1クラブに対する助成を実施 〔・クラブ間での情報共有等を実施 〔・総合型地域スポーツクラブの普及啓発のため、イベント開催、チラシ配布、情報発信を実施 ・4区7公園で健康器具やウォーキングコース案内看板の設置【再掲】 ・冊子「公園で健康づくり」を配布し活用・周知 ・区と連携した健康づくりイベントを下田町四丁目公園(港北区)で開催【再掲】

柱3 文化芸術の創造性を生かしたまちづくり

分野: 横浜らしい特色ある芸術フェスティバルをはじめとした文化プログラムの実施により、まちににぎわいを創出するとともに、横浜の魅力を世界に発信します

主な取組の内容	目標時期	所管局	平成30年度の取組状況
<p>① 横浜トリエンナーレ事業、横浜芸術アクション事業など文化芸術創造都市・横浜ならではの文化プログラムの推進</p> <p>ア 文化プログラムの推進</p> <p>東京2020大会開催までの間、横浜トリエンナーレ、Dance Dance Dance @ YOKOHAMA、横浜音祭りを中核的な取組として実施します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 横浜トリエンナーレ事業 Dance Dance Dance @ YOKOHAMA(横浜芸術アクション事業) 横浜音祭り(横浜芸術アクション事業) 	H29・R 2 H30 R元	文化観光局	<ul style="list-style-type: none"> 横浜芸術アクション事業「Dance Dance Dance @YOKOHAMA 2018」の開催 横浜トリエンナーレ事業開催概要の決定(会期、会場、ディレクター) IBAへの継続的参加及び国際展関係者との交流 CCNJ国際展部会(新潟、参加人数43名) 「ヨコハマアートラリー アートと笑いの境界線」の開催(参加人数:987名) 市民サポーター向けの講座やワークショップ等の開催(サポーター登録者1,468名、サポーター活動プログラム数41回、参加者416名)
<p>イ beyond2020プログラムの認証の実施</p> <p>国が進める文化プログラムの認証制度である「beyond2020プログラム(※)」の認証組織となり、国と連携して2020年に向けた機運醸成を図るとともに、認証業務を通じて、共生社会・国際化につながる市内の文化芸術活動を促進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 文化プログラム推進事業 <p>※beyond2020プログラム:東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とし、日本文化の魅力を発信するとともに障害者や外国人にとってのバリアを取り除く取組を対象に認証を行う制度</p>	～R 2	文化観光局	<ul style="list-style-type: none"> beyond2020プログラムの認証実施(認証件数:210件)
<p>② 環境技術を活用したアートイベント(スマートイルミネーション)やユニバーサルな文化事業(パラトリエンナーレなど)の実施</p> <p>ア 環境技術を活用したアートイベントの実施</p> <p>省エネルギー技術とアーティストの創造性を融合させた、新たな夜景の創造を試みる横浜ならではの国際アートイベントを実施します。</p> <ul style="list-style-type: none"> スマートイルミネーション事業 	～R 2 (R 3以降も継続予定)	文化観光局	<ul style="list-style-type: none"> スマートイルミネーション横浜2018を開催 来場者数:125,000人
<p>イ ユニバーサルな文化事業の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 障害のある方と多様な分野のプロフェッショナルとの協働により、新たな芸術表現を生み出す現代アートの国際展を開催します。 ○ヨコハマ・パラトリエンナーレ事業 ・「ヨコハマ・パラトリエンナーレ2020(仮称)」に向けてアートワークショップや支援者育成を実施します。 	H29・R 2	健康福祉局 文化観光局	<ul style="list-style-type: none"> パラトリエンナーレ2020開催準備 パラトリエンナーレの普及活動(ドキュメンタリー映画の作成等) アクセシビリティ実践講座(4回) 障害者の文化活動を支援する人材の育成

柱3 文化芸術の創造性を生かしたまちづくり

分野:子どもたちの豊かな感性や創造性をはぐくむ文化芸術体験の充実や新進アーティストの支援といった次世代育成に取り組めます

主な取組の内容	目標時期	所管局	平成30年度の取組状況
<p>① <u>子どもたちの文化芸術体験の充実</u> ア 横浜トリエンナーレ事業を通じた次世代育成 横浜トリエンナーレ事業において、子どもたちが展覧会を鑑賞する機会をつくるなど、世界の芸術作品を身近に感じることができる取組を進めます。</p>	~R 2 (R 3以降も継続予定)	文化観光局	・ヨコハマトリエンナーレ2020 (仮称) 開催準備
<p>イ 横浜芸術アクション事業を通じた次世代育成 横浜芸術アクション事業 (横浜音祭りやDance Dance Dance @ YOKOHAMA) において、学校にプロのアーティストを派遣し、ワークショップの開催などを通じて、次世代育成に取り組めます。 ・横浜芸術アクション事業 (次世代育成)</p>	~R 2 (R 3以降も継続予定)	文化観光局	・Dance Dance Dance @ YOKOHAMA 2018開催 次世代育成プログラム数: 10 (「18区ダンスワークショップ」、 「ダンス部応援プロジェクト!」、 「ひつじのショーンキャラバン隊」 「スクール・オブ・ダンス」など計10プログラム) 参加者数 (講師観客数含む) : 23,907人
<p>② <u>新進アーティストの発掘・育成・支援</u> ア クリエイティブ・チルドレン・フェローシップ、アーティスト・クリエイターのための事務所等開設支援助成 ・次世代を担う若手アーティストがキャリアアップ活動を行うためのフェローシップ型の支援を行います。 ・若手のアーティスト・クリエイターが既存の民間ビルを賃貸借して、スタジオやアトリエ、事務所等を開設することを支援します。</p>	H29~R 2 (R 3以降も継続予定)	文化観光局	・アーティスト・クリエイターへの助成: 採択件数9件 ・アーティスト・クリエイター向け相談窓口の運営: 相談件数201件

柱3 文化芸術の創造性を生かしたまちづくり

分野：一人ひとりの市民が、地域におけるさまざまな文化芸術活動に参加し、いきいきと活動できる環境の整備や文化芸術活動への支援を行います

主な取組の内容	目標時期	所管局	平成30年度の取組状況
<p>① 地域における文化芸術活動の拠点機能の充実</p> <p>ア 障害のある方の文化芸術活動を支援する環境及び仕組みの整備 障害者芸術文化活動を支援する人材を確保します。また、カリキュラムの作成及び企画展を通じた実地活動の場を作り、支援人材の育成を図っていきます。これらの取組を通して、活動団体の更なる活性化を図り、将来的な協議会機能の構築を目指します。 ・障害者芸術活動支援ネットワーク構築事業</p>	<p>～R 2 (R 3以降も継続予定)</p>	<p>健康福祉局</p>	<p>・国際障害者交流センターとの共催による、国内外の障害者アーティストの入選作品展の開催：1回(来場者数：2,075人)</p>
<p>② 地域課題の解決につながる文化芸術活動の支援</p> <p>ア 横浜の文化や芸術に係るあらゆる情報を一体的に発信する多言語対応の情報サイトの構築 世界の注目が集まるこの時機を捉え、①鑑賞したい人、②発信したい人、③調べたい人(アーティストやアーカイブ)など、横浜の文化や芸術に係るあらゆる情報を一体的に発信する多言語対応の情報サイトを構築し、世界に向けて文化芸術創造都市・横浜のプレゼンスを高めるための準備を進めます。 ・総合的文化芸術創造都市情報発信WEBサイトの構築</p>	<p>R 元</p>	<p>文化観光局</p>	<p>・総合的文化芸術創造都市情報発信WEBサイトの構築・公開に向けた実施検討</p>

柱3 文化芸術の創造性を生かしたまちづくり

分野: アーティスト・クリエイターなど創造的な人材と企業や地域との共同を推進し、創造的産業の集積・振興につなげ、創造性を生かしたまちづくりを進めます

主な取組の内容	目標時期	所管局	平成30年度の取組状況
<p>① <u>企業やNPO、大学等と連携したアーティスト・クリエイターの集積とビジネス機会の創出</u> ア プラットフォームの設立・運営 アーティスト・クリエイターと企業、NPO、大学等の様々な団体が出会い交流する仕組み(プラットフォーム)を構築することで、相乗効果を生み出していくとともに、横浜の文化芸術創造都市施策の中核的役割を果たす体制づくりに取り組みます。</p>	H29～R 2 (R 3以降も継続予定)	文化観光局	<ul style="list-style-type: none"> ・ネットワーク促進プログラムを実施：4回 ・アーティスト・クリエイター向け相談窓口の運営：相談件数201件【再掲】 ・クリエイタープロモーション用WEBサイトの運営：登録数45件
<p>② <u>アーティスト・クリエイター同士のネットワークづくり</u> ア プラットフォームの設立・運営《再掲》 アーティスト・クリエイターと企業、NPO、大学等の様々な団体が出会い交流する仕組み(プラットフォーム)を構築することで、相乗効果を生み出していくとともに、横浜の文化芸術創造都市施策の中核的役割を果たす体制づくりに取り組みます。</p>	H29～R 2 (R 3以降も継続予定)	文化観光局	<ul style="list-style-type: none"> ・ネットワーク促進プログラムを実施：4回【再掲】 ・アーティストやクリエイター、地域による協働プログラムを実施：1回

柱4 横浜を世界に魅せる

分野:「横浜ならではの」魅力・コンテンツの発信により、国内外から人が訪れ、賑わう「千客万来のまちづくりを進めます」

主な取組の内容	目標時期	所管局	平成30年度取組状況
<p>① 横浜ならではの魅力創出とシティプロモーションの展開</p> <p>ア 横浜都心のまちづくりや、広域ネットワークの整備による、都市の魅力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 横浜都心（都心臨海部及び新横浜都心）のまちづくりや、広域ネットワークの整備により、都市活力を向上させ、多くの人を惹きつける都市づくりを推進します。 ○横浜駅周辺地区（（仮称）横浜駅西口開発ビルや駅前広場等周辺基盤の整備） ○みなとみらい21地区（国際業務機能の集積及び観光・エンターテインメントの推進） ○関内・関外地区（新市庁舎整備及び周辺とのアクセス性・回遊性向上の取組（（仮称）大岡川横断人道橋整備等）、現庁舎周辺のまちづくり等） ○山下ふ頭周辺地区（都心臨海部の新たな賑わい拠点の形成に向けた再開発の推進） ○東神奈川臨海部周辺地区（区画整理や再開発等による新たなまちづくりの推進） ○新横浜都心（都市環境の変化に適応した、適正な土地利用およびまちの活性化の推進） ○横浜環状北西線の整備による、広域ネットワークの形成 	<p>H29～R 2 (R 3以降も継続予定) ※新市庁舎整備～R 2</p> <p>R 2</p>	<p>都市整備局 港湾局 道路局 総務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・民間開発・基盤整備の取組推進 ・みなとみらい21地区：街区開発進捗率約88%（暫定施設含む 約93%） ・関内・関外地区：引き続き新市庁舎の整備においては、本体工事を進め、中層部の内装工事等にも着手 ・関内駅北口整備事業等の推進 ・現市庁舎街区の事業者公募を開始 ・関内・関外地区：（仮称）大岡川横断人道橋整備：橋脚下部工事、上部工事の着手 ・山下ふ頭周辺地区の再開発：事業推進 ・東神奈川一丁目：事業完了 ・東高島駅北：事業中 ・まちづくりの取組推進 ・横浜環状北西線：全線で工事の推進
<p>イ シティプロモーションの展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・横浜の認知度やブランド力向上を図るため、ターゲットに応じた効果的な手法により、プロモーションを展開します。 ・都心臨海部におけるパーソナルモビリティツアーの実現に向けた実証実験を行います。 ・アジアに加え、英国やオーストラリア等をターゲットに動画やSNSを活用した海外プロモーションを強化します。 	<p>H29～R 2 (R 3以降も継続予定)</p>	<p>文化観光局 国際局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜市に関する意識・生活行動実態調査の実施 ・パーソナルモビリティツアー 公道実証実験の実施：60回実施 ・重点プロモーション事業のメディア露出件数：20,857件 ・インスタグラムフォロワー数：45,530人(平成30年3月31日時点) ・英国・オーストラリアにおけるWebサイトの広告枠を活用したプロモーション動画の配信のビュー数：英国/979,464ビュー、オーストラリア/956,743ビュー ・スコットランド(英国)プロモーション業務委託：1回
<p>ウ 国内外からの集客の推進</p> <p>国内外からの集客のため、誘客プロモーションと迎賓・観光施設の機能強化を推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○メディア・旅行会社を対象としたセールス活動やクルーズ旅客の横浜滞在・観光促進 ○国内向けセールス・プロモーションやユニバーサルツーリズム（※）の推進などを実施 ※ユニバーサルツーリズム：年齢や障害の有無等にかかわらず、全ての人が楽しめるように創られた旅行 ○訪日観光客の横浜での滞在・観光の促進 ○国指定名勝三溪園を維持・保存するとともに、国内外からの集客及び日本文化発信の拠点として活用 	<p>H29～R 2 (R 3以降も継続予定)</p>	<p>文化観光局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・メディア・旅行会社等に対する海外誘客セールス：件数 552件 ・国内向けセールス・プロモーションの実施（27回、172社訪問） ・ニューツーリズムの推進（6作品） ・旅行関連口コミサイトや英語ニュースサイトを活用したオンラインプロモーション：口コミサイト総クリック数/約1.9万回、英語ニュースサイト/約26万PV ・英国等でのBtoB現地セールス：4回 ・メディアの視察対応 ・重要文化財である臨春閣の大規模修繕に着手するとともに、名勝庭園やその他建造物の修繕、維持管理に伴う経費に対する補助を実施 ・RWC2019、東京2020オリパラを見据えた迎賓施設として受入環境を整えるため、園内トイレ改修の基本計画を策定
<p>② インバウンド対応強化など千客万来のまちづくり</p> <p>ア 外国人観光客の受入環境の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光案内所の運営など国内外からの観光客の受入環境整備の推進 ・多様な文化圏からの観光客の受入環境整備や誘客の推進 ・横浜観光情報公式サイトの多言語対応強化、外国人観光客への情報拠点の機能拡充、市内事業者向け研修などの実施 ・災害発生時の避難先など、求訪外国人等の安心な滞在に向けた多言語情報をスマートフォン向けに提供します。 	<p>H29～R 2 (R 3以降も継続予定)</p> <p>H30～R 2</p>	<p>文化観光局 国際局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市内3か所の観光案内所運営、民間観光案内所への支援（多言語ツールの提供） ・多言語観光マップの制作：マップ21万部、ガイド12万部 ・観光関連事業者向けセミナー実施：1回、35名参加 ・海外旅行博・商談会への出展：2回 ・市内事業者向けセミナーの実施：2回 ・旅行会社またはメディア等招請：5回 ・韓国語サイトの改修及びオリパラ観戦を意識したスポーツページの制作 ・首都圏のタッチポイントを活用した横浜プロモーション等の実施：1か月間、東京タワーツーリストインフォメーションセンターで実施 ・国によるスマートフォン向けアプリ「Safety Tips」のデータ公開を踏まえ、同アプリを活用した外国人向け災害情報の充実に向けた検討を実施
<p>イ 商店街のインバウンド対応強化への支援・プロモーションの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国人観光客が訪れやすい環境づくりに取り組む商店街に対して、ハード整備（Wi-Fi環境、免税手続きカウンター等）やソフト事業（マップやホームページの多言語化等）のみならず、セミナーの開催やコンサルティングなど、多様な支援を行います。 ・ウェブページやリーフレット、その他メディアを通じて、商店街の魅力を外国人観光客に発信します。 	<p>～R 2</p>	<p>経済局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・補助金交付件数：6件 セミナー実施回数：1回 ・ウェブサイトでの多言語による商店街の紹介：17エリア・26商店街 ・横浜商店街ガイドマップの発行：60,000部（日本語、英語、中国語（簡体字・繁体字）、韓国語、フランス語の総計） ・商店街ツアー：3件

柱4 横浜を世界に魅せる

分野: 来訪者の滞在環境の向上や都心部での緑化(花)等により来訪者や市民が「居心地がいい」と感じるようなまちづくりを進めます(1/3)

主な取組の内容	目標時期	所管局	平成30年度の取組状況
<p>① バリアフリーの取組や案内サインの多言語化、通信環境の向上などによる快適な滞在環境の提供</p> <p>ア 会場周辺駅のバリアフリー化</p> <ul style="list-style-type: none"> 大会を通じて多くの来街者が訪れる鉄道駅のバリアフリー化を行い、誰でも快適に移動できる交通環境を整えます。 ○ J R 関内駅北口 ○ J R 石川町駅南口 	H29 H30	都市整備局	<ul style="list-style-type: none"> 旧駅舎の撤去、横浜方ホームの拡幅などの工事を行い、駅舎改良工事を完了 エレベーター、多機能トイレの整備、段差解消工事を進め、駅のバリアフリー化を完了
<p>イ 案内サイン多言語化など、案内環境の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 外国人観光客も含め、多くの来街者が、迷わず、円滑に目的地に到達するための案内環境を整えます。 ○案内サイン等の整備 <ul style="list-style-type: none"> ◇都心臨海部及び新横浜周辺地区において、施設管理者や鉄道事業者などの関係者と連携し、道路・公園・鉄道駅等の案内サインの多言語化、統一化、連続性の確保など、来街者にとって分かりやすい歩行者用の案内・誘導サイン整備の実施 ◇市営地下鉄駅構内案内サインのリニューアル ◇公共サインガイドラインの改定検討 ○道路案内標識について、英語表記の改善や反転文字の活用 	R 元 ～ R 2 H30 R 元	交通局 都市整備局 道路局 国際局	<ul style="list-style-type: none"> 案内サインの地図データの更新や既存の矢羽根付き案内サインの地図面の撤去方法について検討 3 駅（高島町駅、下永谷駅、舞岡駅）リニューアル完了 大型案内標識に高速道路路線番号（ナンバリング）等の追加：8基
<p>ウ Wi-Fi 整備による、通信環境の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みなとみらい21地区等 ○地区における主要な歩行者空間や結節点の屋外公共空間（公園・港湾緑地等）における、公衆無線LAN（Wi-Fi）の早期整備 	H29	都市整備局	<ul style="list-style-type: none"> 桜木町駅前歩行者広場、グランモール公園（美術の広場）、日本丸メモリアルパーク、象の鼻パーク、臨港パークに設置した既設施設の管理運用を実施 臨港パークにおいて新たに設備を設置
<p>エ 広告付案内サイン・公衆無線LAN（Wi-Fi）整備</p> <p>国内外からの来街者に快適な滞在環境を提供するため、外国人観光客をはじめ多くの来街者が訪れる横浜都心部の公共空間（道路等）において、訪日外国人等からのニーズの高い公衆無線LAN（Wi-Fi）や、案内サインを整備し、良好な管理運営を行うことで、滞在環境の向上を図ります。</p>	R 元	都市整備局	<ul style="list-style-type: none"> 広告付き案内サイン・公衆無線LAN整備事業で公募し、特定した事業者と契約締結

柱4 横浜を世界に魅せる

分野: 来訪者の滞在環境の向上や都心部での緑化(花)等により来訪者や市民が「居心地がいい」と感じるようなまちづくりを進めます(2/3)

主な取組の内容	目標時期	所管局	平成30年度の取組状況
オ 良質な宿泊施設の立地促進による、滞在環境の向上 ・都心臨海部や新横浜を対象に、宿泊施設の容積率緩和を通じて、外国人旅行者ニーズにも対応した良質な宿泊施設の立地を促進します。	H29～R 2 (R 3以降も継続予定)	都市整備局 建築局	・宿泊施設の容積緩和の方針に基づき改正を実施した市街地環境設計制度を継続運用
カ きれいな街並みに向けた環境整備 ・清潔な街並みによる、居心地の良い環境の実現に向けて、会場周辺を対象に、以下の取組を行います。 ○歩道や市所有地・市所有施設について、大会期間にあわせて清掃等の実施 ○大会期間にあわせてポイ捨て・歩行喫煙防止パトロールを集中的に実施 ○喫煙禁止地区の標識・標示・看板等の多言語化 ○公衆トイレ案内の多言語化、外国人向け利用マナー表示類の充実及び洋便器化等の改修推進 ○会場周辺や繁華街などのエリアについて、大会期間中、昼間の時間帯にごみが置かれないう、焼却工場に夜間搬入可能な環境整備の実施 ○多くのお客様を迎える場所の、望ましい公共的機能(公衆トイレ・喫煙所)の検討、整備	H30～R 2 R元～2 H30～R 2 H29～30 H30 H29～R 2	資源循環局	・ラグビーWC試合前後の会場周辺清掃に向け新横浜駅周辺のポイ捨て状況調査を実施 ・横浜市ホームページに喫煙所までの道案内を写真付きで掲載し、周知開始 ・喫煙禁止地区の標識・標示・看：日英2か国語標記実施済(喫煙所自体も7か国語で標示) ・24時間受入れに必要な設備改修の実施 ・H29実施の調査結果を活かし、桜木町駅前公衆トイレ、横浜アリーナ公衆トイレについて洋便器化等の改修工事及び利用マナー表示(日英中韓)の掲示を実施
キ 快適な滞在を下支えする、安全・安心なまちづくりの推進 ・1日あたりの乗降者数10万人以上の駅(21駅)と視覚障害者利用施設の最寄駅(7駅)を対象に鉄道事業者に補助金を交付し、整備促進を図ります。 ・警察等と連携した合同査察を定期的の実施するなど、繁華街における治安対策を強化します。	H29～R 2 H29～R 2 (R 3以降も継続予定)	都市整備局	・補助対象28駅のうち、JR京浜東北・根岸線東神奈川駅、桜木町駅、東急田園都市線あざみ野駅、長津田駅の合計4駅で可動式ホーム柵の使用開始 ・合同パトロールの実施：2回
② 花や緑による賑わいの創出 ア 都心臨海部の緑花による賑わいづくり ・公園等の公共施設を中心に、緑花によるまちの賑わいづくりを進めます。	～R 2 (R 3以降も継続予定)	環境創造局	・都心臨海部の緑花の推進 ・緑花の維持管理の推進
イ 第33回全国都市緑化よこはまフェアの開催 ・都心臨海部の緑化をはじめ、郊外部での緑の取組を含めて、緑や花で美しい街、横浜を内外にアピールします。	～H29	環境創造局	(H29で事業終了)
ウ 「ガーデンシティ横浜の推進のための先導的な取組である「ガーデンネックレス横浜」の展開 都心臨海部や郊外部の里山ガーデンを中心として、全市・地域で花と緑による街の魅力形成、賑わいの創出を図り、花や緑で彩られた美しい街、横浜を内外にアピールします。	～R 2 (R 3以降も継続予定)	環境創造局	・「ガーデンネックレス横浜」の実施 ・都心臨海部での花と緑による街の魅力創出と賑わいづくり ・全市・地域での花と緑による魅力創出(各区連携、地域の花いっぱい推進、広報・プロモーションの展開)

柱4 横浜を世界に魅せる

分野: 来訪者の滞在環境の向上や都心部での緑化(花)等により来訪者や市民が「居心地がいい」と感じるようなまちづくりを進めます(3/3)

主な取組の内容	目標時期	所管局	平成30年度の取組状況
<p>③ 都心臨海部における新たな交通による回遊性の向上</p> <p>ア 都心臨海部における回遊性の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 都心臨海部において、まちの賑わいづくりや回遊性向上を図るため、連節バスを活用した「高度化バスシステム」を導入します。 河川や内港地区を中心として、市民等への開放を積極的に行う取組を進めるため、水上交通や水陸両用バスを軸とした新たな水辺の賑わい方策を官民協働で推進します。 都心臨海部における現エリアのポート拡充、及びエリア拡大を図り、コミュニティサイクルの更なる利便性向上を推進します。 	<p>R 2</p> <p>R 2</p> <p>～R 2 (R 3以降も継続予定)</p>	<p>都市整備局 交通局 港湾局</p>	<ul style="list-style-type: none"> 高度化バスシステム 走行環境の確保に向けた道路詳細設計等の実施 連節バス車両の導入の推進 連節バス車内運行システムの構築 連節バス対応の車両工場の改修 官民協働による水上交通社会実験を踏まえたイベントとして、春爛漫・横浜クルーズ(3～4月)及び横浜運河パレード(11月)を実施 輸送実験として、川崎市と連携した取り組み(9月)を実施 イベント開催地における棧橋間をつなぐ水上交通社会実験(9月)を実施 (横浜日ノ出棧橋とピア赤レンガ棧橋) サイクルポート新設:25箇所 本牧地区、西区既成市街地へ事業エリア拡大

柱4 横浜を世界に魅せる

分野:再生可能エネルギー等の活用や環境に配慮したライフスタイルの推進など、世界のモデルとなるスマートシティの実現を目指します

主な取組の内容	目標時期	所管局	平成30年度の取組状況
<p>① エネルギーマネジメントの推進、再生可能エネルギー・水素等の活用</p> <p>ア 燃料電池自動車等の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> 燃料電池バスや電気自動車などの環境車両を、会場・イベント等で活用することを検討します。 	～R元	温暖化対策統括本部 環境創造局	・活用に向けた検討・関係者調整
<p>イ 再生可能エネルギーの活用及びプロモーション</p> <ul style="list-style-type: none"> 大会期間中の会場での再生可能エネルギー等の活用（グリーン電力証書、市内公共施設での発電、EV・FCVによる給電など）や、焼却工場の余剰電力の活用（会場への自己託送）を検討します。 市内4か所の焼却工場を環境スポットとして、ごみ焼却により得られる再生可能エネルギーのプロモーションを行います。 <ul style="list-style-type: none"> ○焼却場で発電した電力で、ごみ収集車を充電するシステムの導入 ○金沢工場、鶴見工場において、隣接する下水道処理施設と連携し、大会期間中、再生可能エネルギーであるバイオマス発電のPRとして、見学受入の充実や焼却工場ライトアップ等の実施 	～R元 R元 R元	温暖化対策統括本部 環境創造局 資源循環局	・活用に向けた検討・関係者調整 ・再生可能エネルギーのPRとして焼却工場でのライトアップ実施 ・川崎市が導入したEVごみ収集車について調査を実施
<p>② 環境に配慮したライフスタイルの推進</p> <p>ア 環境に配慮したライフスタイルの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 大会に向けて、公共交通の利用など温暖化対策の実践等、環境に配慮したライフスタイルの普及啓発活動を推進します。 市民や市内企業の省エネ等による温室効果ガスの排出削減を活用した大会関連イベント等のカーボンオフセットを検討します。 	～R2 (R3以降も継続予定) ～R元	温暖化対策統括本部	・様々なステークホルダーと連携して、環境に配慮したライフスタイルの普及啓発活動や環境教育を実施（YES講座396回、ライトダウンイベント2回、横浜市地球温暖化対策事業者協議会省エネ研修会5回等） ・平成30年7月より参加市民・事業者を募集開始 平成30年度参加実績：市民4,113名、事業者5者
<p>イ 3Rの推進や、食品ロス削減の取組の、世界への情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> マイバッグ・マイボトルなどのリデュースの取組や、ごみの分別・リサイクルを紹介することで、横浜が推進している3R行動をPRします。 国際機関と連携しながら、世界の食糧事情と横浜市の食品ロス削減の取組を世界に情報発信し、資源の重要性をPRします。 	～R2 (R3以降も継続予定)	資源循環局	・3R夢クッキング講座・冷蔵庫収納術講座の開催：65回 ・使いきりレシピの作成 ・土壌混合法実施器材の購入及び講座の開催：448回 ・食品ロス削減に向けたシンポジウム等の開催：3回 ・市民の食品ロス削減メッセージ写真（3,807枚）をもとに「MOTTAINAIモザイクアート」を作成 ・マリノスやベイスターズと連携したポスターの作成・掲示：3,262枚
<p>③ みなとみらい21地区を中心に、スマートなまちづくりに向けた環境ショーケースとしての取組の推進</p> <p>ア みなとみらい2050アクションプランにもとづくスマートなまちづくりの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 「エネルギー」「グリーン」「アクティビティ」「エコ・モビリティ」の4分野において、それぞれが連携したスマートなまちづくりを推進します。 <ul style="list-style-type: none"> ○パシフィコ横浜等にコージェネレーションシステムを導入し、地域冷暖房施設と連携するなどの、新たな取組の推進 ○第33回全国都市緑化よこはまフェアの開催を契機とした、歩いて楽しめる緑化空間の創出 ○ICTなど、先端技術を活用したイベントの実施 ○国内で実用化・技術開発の進むパーソナルモビリティなど、多様な次世代交通の体験の場の創出 	H30 R2	温暖化対策統括本部	・コージェネレーションシステム導入に向けた関係者との調整を実施 みなとみらい地区：3か所で導入が完了（パシフィコ横浜等） ・地域の企業等を中心とし、それぞれの取組において、実証実験・普及啓発等を実施 ・地域の企業等を中心とし、それぞれの取組において、実証実験・普及啓発等を実施（パーソナルモビリティ実証実験を含むイベント実施を検討） ・地域の企業等を中心とし、それぞれの取組において、実証実験・普及啓発等を実施（パーソナルモビリティを活用し、商業施設と連携したイベントでの試乗体験や、回遊性の高い移動支援サービス等の実現可能性を検証するため地域内公道走行実証実験を実施）

柱4 横浜を世界に魅せる

分野: 世界に開かれた国際都市・ビジネスチャンスあふれる都市 横浜を発信します

主な取組の内容	目標時期	所管局	平成30年度の取組状況
<p>① MICE機能や客船の受入環境の強化</p> <p>ア MICE機能の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 新たなMICE施設の整備 <ul style="list-style-type: none"> ○横浜での開催需要に対応するため、パシフィコ横浜の隣接地（みなとみらい21中央地区20街区）に新たなMICE施設を整備します。 ○横浜駅方面からのアクセス性を向上させるため、臨港幹線道路を横断し、新たなMICE施設及び臨港パークに連絡する歩行者デッキを整備します。 	R 2	文化観光局 都市整備局 港湾局	<ul style="list-style-type: none"> ・MICE施設：本体工事（継続） ・歩行者デッキ：工事着手
<p>イ 客船の誘致・受入機能の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大さん橋国際客船ターミナルのサービス拡充 <ul style="list-style-type: none"> ○出入国管理審査用ブースを増設し、大型客船寄港時の出入国審査に要する時間を短縮するなど、サービス拡充を図ります。 ○大さん橋1号線の渋滞緩和策として車線の拡幅整備を実施します。 ・新港地区客船ターミナル整備 <ul style="list-style-type: none"> ○大さん橋国際客船ターミナルを補完する客船バース及び公民連携事業により客船ターミナル施設等を整備します。 ・超大型客船の受入機能強化 <ul style="list-style-type: none"> ○大黒ふ頭において、自動車専用船岸壁の改良に併せて、ベイブリッジを通過できない超大型客船の受入機能を強化します。 ・ホテルシップの実現 <ul style="list-style-type: none"> ○特色ある宿泊施設として観光需要を創出するため、クルーズ船をホテルとして活用するホテルシップを実現します。 	<p>～R 2 (R 3以降も継続予定) H29</p> <p>H30</p> <p>R 2</p>	港湾局	<ul style="list-style-type: none"> ・大さん橋国際客船ターミナル <ul style="list-style-type: none"> ○空調オーバーホール実施 ○出入国管理審査用ブース：運用中 ○客船寄港回数168回（うち物流ふ頭15回） ・大さん橋1号線 <ul style="list-style-type: none"> ○拡幅した道路を供用 ・新港地区の客船ターミナル施設等の整備 <ul style="list-style-type: none"> ○客船ターミナル施設工事着手 ○岸壁改修の推進 ・超大型客船の受入機能強化 <ul style="list-style-type: none"> ○CIQ施設（大黒ふ頭客船ターミナル）完成 ・ホテルシップ実現のための法令対応整理
<p>② ビジネス環境の向上とプロモーションの充実によるビジネス機会の拡大</p> <p>ア 企業立地における、横浜の魅力の発掘・構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国企業や外資系企業の目線で、横浜ならではの魅力を把握・構築し、発信します。 	～R 2 (R 3以降も継続予定)	経済局	<ul style="list-style-type: none"> ・北米向けプロモーション(ニューヨークでのセミナー、サンディエゴでの企業誘致活動等) ・Slush Tokyoへの出展 <ul style="list-style-type: none"> ○ブース展示 5社、ピッチコンテスト参加 1社 ・ビジネス環境調査
<p>イ 外資系企業誘致に向けた効果的なプロモーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トップセールスにより、横浜への投資や進出を呼びかけるプレゼンテーションを実施します。 ・オンライン相談窓口の設置・リアリティのある横浜の魅力の発信を行います。 	～R 2 (R 3以降も継続予定)	経済局	<ul style="list-style-type: none"> ・上海でのプレゼンテーション等 ・オンライン窓口による相談受付、外資系企業向けの随時情報発信 ・国内外への横浜のビジネス環境の発信や支援制度の活用による企業誘致誘致件数66件（うち外資系企業25件）